

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和4年6月30日(木) 午後2時

閉 会 年 月 日

令和4年6月30日(木) 午後2時30分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さ と み

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

| 6月30日 | 会議に附した事件 |
|--------|--|
| 承認第1号 | 臨時代理の承認について（高崎市立高崎経済大学附属高等学校令和5年度使用教科用図書の採択） |
| 議案第13号 | 高崎市社会教育委員の委嘱について |
| 議案第14号 | 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について |
| 報告連絡事項 | 第10回高崎学検定及び第9回高崎学検定解説ブックについて |

高崎市教育委員会 6月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

それでは、これより高崎市教育委員会 6月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、重田委員と神宮委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

承認第1号「臨時代理の承認について（高崎市立高崎経済大学附属高等学校令和5年度使用教科用図書採択）」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。

（依田 学校教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質疑等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。本案は原案のとおり決することでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、承認第1号は原案のとおり決しました。

続きまして、議案第13号「高崎市社会教育委員の委嘱について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。

（茂原 社会教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質疑等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。本案は原案のとおり決することでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、議案第13号は原案のとおり決しました。

続きまして、議案第14号「高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。

（藍 中央公民館長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質疑等ありますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。本案は原案のとおり決することでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、議案第14号は原案のとおり決しました。

続きまして、報告連絡事項に入ります。「第10回高崎学検定及び第9回高崎学検定解説ブックについて」の説明をお願いいたします。

（茂原 社会教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質疑等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局からその他、報告等何かありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

事務局からはないようですが、委員の皆様から、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

委員（重田誠）

最近の記録的な猛暑で熱中症が心配されます。私のクリニックにも、連日、熱中症の子が来ていますが、だいたい学校から帰ってきて、その後、気持ち悪くなったり、吐いたりして来ています。また、幼稚園児だとプールに入って、帰ってきてからそういうことがあります。学校でもプールや運動の際には、その辺の対応はしっかりしていると思うのですが、まだ夏休みまで時間がありますので、プールの対応や学校での体育の対応など、熱中症対策としてどういった感じでやっていますか。

健康教育課長（長岡誠）

連日のこの暑さに対して、教育委員会から注意喚起をしております。まずは、子どもの健康観察について、朝まず来た時に体調はどうか、また昼の時点でも健康観察をしっかりと、それから体育の授業等、外で行う場合には、WBGTという暑さ指数を必ず確認し、31指数がある場合には、原則、外での運動は控えた方が良くということになりますので、そういったものを見ながらやっております。水泳に関しては、今年度は予定どおり行っていますが、日本水泳連盟の規定の中に、気温と水温を足して65℃以上の場合には水泳に適さないという通知が出ていますので、それに従った対応で熱中症を防ぐようにしております。また、一日の学校生活を終えた下校時に具合が悪くなるというケースもありますので、水筒の確認や、帰りの会で子どもの健康観察をしっかりとから帰宅させる等の対応をしています。

委員（重田誠）

ありがとうございます。個人差があって、一律の基準ではいけないこともあるので、その辺は配慮していただきたいと思います。また、プールの時は水分を十分に取らせているのですか。

健康教育課長（長岡誠）

はい、水筒を持参しております。

教育長（飯野眞幸）

かつてプールサイドを移動する時に足をやけどしたという、そういう子もいました。今のところ、それは大丈夫ですか。

健康教育課長（長岡誠）

大丈夫です。

教育長（飯野眞幸）

それから、夏休みのプールはどうなっていますか。

健康教育課長（長岡誠）

夏休みのプールについては、基本的に感染症対策をとったうえで実施するということになっております。今のところ、小学校は4校が実施し、残りの学校については、夏のプール開催は控えるということになると思います。中学校に関しては、部活動もございまして、水泳の練習については学校の実状に応じて実施する予定でございます。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（神宮嘉一）

私も、重田委員と同じような質問なのですが、今日、榛名方面に行っていて車の温度計を見ましたら36℃で、お昼過ぎにこちらに戻ってきたら39～40℃近くになっていました。多少、地域差はあるのかなと思いました。大変暑い中で、やはり子どもたちの健康が心配される場所なのですが、今、マスクの着用に関して、何か取り決め事項はあるのでしょうか。

教育長（飯野眞幸）

今日、午前中に定例校園長会議がありまして、私の方から、マスクの着用についての話はしたのですが、その辺を踏まえて健康教育課長からお願いします。

健康教育課長（長岡誠）

6月14日付けの通知で、マスクの着用について学校に周知しました。基本的に登下校については、距離が取れば外して良い。体育の授業についても外して良い。部活動についても、外して良いのですが、競技団体のガイドラインに沿った形でと加味しています。やはり、2年間マスクをずっと着けていますので、外して良いですよと言っても、なかなか外さない子どもと、素顔を見せたくないといった子どももいるということで、マスクを着けていたことが習慣づいていて、なかなか外せない状況もあると思います。ただ熱中症等で、命の危険のリスクもある場合は外してくださいと、学校では丁寧に子どもたちに呼びかけを行っているところです。

教育長（飯野眞幸）

今日の毎日新聞に、子どもはマスクを外すのを嫌がる解説記事がありました。その中に、子どもの心理が見事に入っているかなと感じました。2年間そうした生活をしているので、感染を防ぎたいという意味でなかなか外せない子どもと、個人的にあまり顔全体を見せたくないと思っている子どもたちもいて、教員が自分もマスクを外すから、皆もマスクを外そうよと言っても外さない子どももいます。それを強制的に外させるというのはなかなかできません。今日の新聞でありましたので、校園長に紹介したところです。重田委員、心理的にもその辺はどうなのでしょう。

委員（重田誠）

そうですね。長くなってくると、大人もそうなのですが、女の方は、マスクを外すのが嫌という人が多いようです。ただ、子どもの場合は、もう1つあって、親や周りの人とかに外していると怒られるというのがあって、外せないというのがあつたのです。全体として外してくれば、だんだん外してくると思います。一時期、登下校時にマスクをしないと怒られたと、それがトラウマになっている子どもも結構いるようです。

教育長（飯野眞幸）

最近よくある同調圧力という言葉です。皆がやっていることを、何でやらないのかという、そういう無言のプレッシャーです。子どもたちなりに悩んでいます。

委員（重田誠）

子どもはコロナに罹っても結構軽いのですが、コロナは怖いという思いがあって、罹ってはいけないと親から言われていて、それでマスクを外せないという子もいますね。やはり、コロナが怖いと思っている子は沢山います。

教育長（飯野眞幸）

今朝、中学生の登校の様子を見ましたが、やはり、マスクを外した子が圧倒的に増えてきましたが、マスクを顎の下にしながらといった、そういう子どももいます。やはり、簡単に全部は外せないようです。顎の下にしている子どもたちもいましたので、子どもなりに色々と工夫をしながら考えてやっているのかなと思います。歩調を合わせて一斉にというのは、難しい状態なのかなと感じます。そういう中でも、あまり息苦しくないマスクが、家庭であるとか学校でも工夫できると良いかなと思います。

委員（神宮嘉一）

登下校に関しては、マスクを着用しなくてもいいよということで、子どもたちが認識しているのは良いですね。

健康教育課長（長岡誠）

距離をある程度取ったうえで、マスクを外して良いということで学校は指導していくと思います。

委員（神宮嘉一）

保護者に対して、その情報はしっかり伝わっているのでしょうか。

健康教育課長（長岡誠）

文部科学省と厚生労働省が作成した簡単なリーフレットがあるのですが、そういったものを学校のホームページで周知したり、お便りの裏側に載せたりというので、周知を図っていくと思います。

委員（神宮嘉一）

もう1点、熱中症に関連する話ですが、特に体育の時間、また、部活動におけるショートレストという表現で良いのか、何分かで2～3分の休憩を挟むような、そういったことは現場では行われているのですか。

健康教育課長（長岡誠）

例えば、15分間運動をしたら、給水タイムを入れることや、エアコンで冷やした部屋に行ってクールダウンを30分に1回するなど、2時間の練習はきついで、場合によっては1時間以内で練習切り上げるとか、各学校で工夫をしながら、熱中症にならないように取り組んでおります。

教育長（飯野眞幸）

例えば、中体連がガイドラインを出しているとか、そういうのではなくて、各学校が独自にやっているといった、統一基準ではないのですね。

健康教育課長（長岡誠）

競技のガイドラインは細かく把握していないのですが、各学校でこまめな休憩や給水等を行っています。競技団体のガイドラインを確認してみます。

教育長（飯野眞幸）

確認をしてもらって、教員の隅々まで伝わるためには、やはり1つのものがあって方が良いと思います。

委員（神宮嘉一）

実は今、教育長のおっしゃったことを、個人的にとても心配していました。何かあったら困りますし、何かあった時に、その管轄をしている先生の個人的な判断で間違った方向にいつてしまったとか、ましてや子どもは小中学生くらいですと、好きに休んでいいよと言っても自主的に休まないでしょうから、その辺の判断も、ある程度は強制的に45～50分の授業の間に必ず1回は入れるとか、何かあった方が個人的には良いかなと感じています。運動なら、その競技の強度による影響はあると思いますので、一概には言えないとは思いますが、この種目の運動をしたら、何分間の休憩を入れるというようにするなど、さすがにこれだけの暑さが続いていると心配になりますので、何か対策というのをやれたらと思います。

教育長（飯野眞幸）

我々は、やってくれているのだろうという前提でいますが、そこに、今、神宮委員が言われたように漏れがあってははいけません。猛暑を1つの機会に、そういう取組を中体連でも良いし、また校長会や教頭会とか、そういう職労団体が考えるのも1つの手なのかなとも思います。その辺を少し確認しておいてください。

教育長（飯野眞幸）

その他に、いかがでしょうか。

委員（重田誠）

先程のマスクの件ですが、文部科学省が子どものマスク着用というパンフレットを出しているのですが、パンフレットの目安に2m以上とありまして、実際、集団登校や集団下校をしていると、結構密なので、子どもはマスクを外してはいけないと思うかなと思います。その辺を指示してあげないと、子どもは正直なので、離れていないと駄目なのかなと思って外せないとか、そういうふうになってしまいます。実際にどれくらいかとか、具体的に指示してあげないと、集団下校の時に外して良いのかわからないと思いますので、その辺をもう少し丁寧に説明をしていくと良いと思います。

教育長（飯野眞幸）

重田委員のおっしゃったように、例えば、国からリーフレットが出ていると言っても、それだけでは、子どもにきちんと伝わっているかどうかわかりません。そういう努力は各学校ですていかななくてはと感じます。保護者に対してもそうですが、リーフレットを渡すだけではなかなか理解してもらえません。特に、登校を見守るような地域の人たちから、マスクをしていないじゃないかという指摘があり、子どもにはそれが堪えるとい

う話もあります。地域の回覧板で、学校単位でこういうことをやっていますというような、地域に対する働きかけが必要なのではないかなと感じます。これは、学校教育課と健康教育課で少し相談をして、夏休みにもなりますので、それなりの対応を考えてもらいたいと思います。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

教育長職務代理者（塚田展子）

定期的にいただいているエデュニュースというものの今月号に、小学生で25%、中学生で35%が、うつ状態を誰にも相談せずとありました。国立教育政策研修所で調査をして、読売新聞か何かに出ていましたが、その後、これを見させていただきました。子どもたちが内側の部分をあまり表に出せないということが最近言われています。悩んでないわけでもないし、コロナの影響というのは結構大きくて、友達との関係も人との関係も、距離がずいぶんできていますので、話しにくくなっているのかもしれない。インターネットと文書によるものと両方で調査しているのですが、どこを基準にしたらいいかというのがあると思うのですが、9~13%の小学生から中学3年生の子どもたちに、中等度ですが、うつ症状が見られるということが書かれていて、相談せずというのが、このくらいいるということです。気になることは、夏休み以降です。正直、学校に行きたくないという子が、なかなか周りに言えないで、そして、周りが言うには遅くまでゲームをやっているからだという一言になってしまいます。なぜやるかを含め、個人で違うと思いますが、どうしてそうなっているのかを見ていくというのが、すごく大事なことです。何とか普通の生活に戻ってほしいという思いがあるので、やはり大人の方に焦りがあります。実は、コロナの影響は大きいですよと、いつも頭の中に入れておかないと大きな失敗をするのではないかという心配があります。コロナの影響はまだまだ3~4年続くでしょうから、とても心配です。先程のコミュニケーションの問題もそうですが、現実問題として、大人もそうだと思うのですが、日本人は口を見られるのが苦手です。目と目を合わせることの視線恐怖だとか、対人緊張というのはあるのですが、もう一つは、口元は隠すようになっています。笑いながら隠す、食べながら口を隠すという、文化的に口元を隠すというのがあります。これでは、外しましよと言われてたとき、違和感を自分ながらにも感じるだろうと思いますので、その辺の複雑な思いがあるということも、今ひとつ、ご理解していただくのが良いかなと思います。

教育長（飯野眞幸）

先程のマスクを外せないという子どもたちの状況について、今、塚田委員がおっしゃった内側を出せない、普段学校の中でも会話が抑えられている、お昼を黙って食べるというのに、似た部分があると思います。普段から会話ができない、我慢してしまう、そういったことが余計自分の表情が出せないことに繋がるということなのかなと思います。夏休みまであと数日という段階なので、そういうまとめを是非、学校の方でもしてもらいたいと思います。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（田野内明美）

防犯の話ですが、安心ほっとメールから不審者情報というのが度々送られて来まして、小・中・高校生、色々な方が、例えば、追いかけられたとか、声を掛けられたとか、カメラを向けられたとか、非常に詳細なことが書いてあります。その人の特徴等も詳しく書いてありまして、情報源としてとてもいいなと思い、よく利用させていただいています。子どもにも自分で受信させれば良いのですが、受信はしていないので、こういうことがあったから気を付けてねということは話しています。あの不審者情報は、被害にあった子どもたちが学校に言うものなのか、警察に言って情報が配信されるまでに至っているのか、その経緯を教えてくださいたいと思います。

学校教育課長（依田哲夫）

担当部署は、市民部の防犯・青少年課となりますが、まず学校から発信する場合は、お子さん、あるいは保護者から学校に不審者の連絡があったところで、まず防犯・青少年課に連絡を入れ、そこから発信をしていくという方法と、あとは残念ながらお子さんが怖い思いをして家に帰って、そして保護者から警察に連絡が入った場合、そこから発信してくる、そういったルートがございます。学校としては、何かあった時にはすぐに連絡をとることを、子どもにも保護者にも伝えて、なるべく早い解決と二次被害にならないよう、そういった体制をとっております。

委員（田野内明美）

幸い、何もなくて良かったというケースもあったり、その後、そうでなかったという情報もきちんと届いたので、安心しました。ありがとうございました。

教育長（飯野眞幸）

他にはいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。以上をもちまして、教育委員会6月定例会を閉会させていただきます。本日は大変ご苦勞様でした。